

令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人鳴門教育大学

1 全体評価

鳴門教育大学は、高度な教職の専門性と教育実践力、かつ豊かな人間愛を備えた高度専門職業人としての教員の養成を最大の使命としている。第3期中期目標期間においては、「学び続ける教員のための大学」として、現職教員再教育の機能を強化した大学院重点化を図るとともに、教育分野を柱とする地域活性化・人材育成の中核拠点として、全国モデルとなる先導的な教育・研究を推進し、その成果を国内外に発信・普及することで、教育・研究を通じて持続可能な社会の実現に貢献することを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、現職教員再教育の機能を強化した大学院改組を進めるなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画に取り組んでいることが認められる。

(「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について)

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和元年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

NITS四国地域教職アライアンスセンター(香川大学、愛媛大学、鳴門教育大学)と各県教育委員会が連携・協働して「広域連携型四国地区次世代リーダー育成プログラム」の開発を開始している。(ユニット「徳島県及び四国地域における教員養成・研修の高度化」に関する取組)

6件のJICA受託研修で、グローバルチューター11名が研修に関わり、教材作成・模擬授業・学外研修・研修運営のサポートを行うほかグローバルチューター(国際交流ボランティア)の募集を広く実施し、グローバルチュータープログラムパスポートを95名に発行し協定校等の教職員及び学生との交流事業、外国人留学生関係事業、留学生の生活支援、JICA受託研修事業等に参加しボランティア活動を実施するとともに日本人学生と外国人留学生同士が異文化交流を深める新規プログラム「ことばdeともだち」を実施し、前期は延べ221名、後期は161名が参加している。(ユニット「グローバル教員養成のための学生研修及び教育研究機能の強化」に関する取組)

2 項目別評価

< 評価結果の概況 >

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化						
(2) 財務内容の改善						
(3) 自己点検・評価及び情報提供						
(4) その他業務運営						

. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

組織運営の改善 教育研究組織の見直し 事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

現職教員再教育の機能を強化した大学院改組

学び続ける教員のための大学として、現職教員の再教育の機能を強化した大学院重点化を目指し、4タイプの院生（現職学生・学卒学生/教科系・教職系）に対応したハイブリッド型カリキュラム、10の教科教育領域をそろえた教科横断型教育実践カリキュラム、小学校英語、プログラミング等、現代教育課題に対応したカリキュラムの特徴がある鳴教大モデルの教職大学院を平成31年4月に設置している。

(2) 財務内容の改善に関する目標

外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 経費の抑制 資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

評価の充実 情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**(理由)** 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。**(4) その他業務運営に関する重要目標**

施設設備の整備・活用等 安全管理 法令遵守等 環境マネジメント

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**(理由)** 年度計画の記載9事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

・教育研究等の質の向上の状況

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

新しいAI活用型教育実習事前検査システムの開発

平成30年度まで実施してきた自己診査を更に充実させ、教育実習を質向上させるため、CATシステム（Computer Adaptive Testing：受検者の回答状況に応じて次の問題の難易度をコンピュータが計算して選択出題する項目反応理論を用いた仕組み）を備えた新しいAI活用型教育実習事前検査システム「N-CBT」(New-Computer Based Testing)を開発している。